

3年ぶり

サケの受精卵 500粒！

「瑞沢川にサケの稚魚を放流する会」よりいただく

12月12日（日）、今日はサケの受精卵をもらいに行く日です。

湖北駅を8：02発、成田・千葉で乗り換えて、上総一ノ宮駅に着いたのは10：12。すぐにタクシーに乗り換えて、睦沢町公民館に向かいました。

すでに水槽を大事そうに持った親子連れが、三々五々、集まっていました。会場では、黄緑のジャケットを着たたくさんのスタッフがサケの受精卵を配布していました。配布するたびに、全体を新聞紙でくるんで渡している光景が印象的でした。

受付で、松本会長に会い、瑞沢川のサケ遡上の様子をうかがいました。放流を始めて12年、7年前から遡上を確認、サケ回帰南限の申請を出していること、などを伺いました。さらにこの放流事業は町の教育委員会の協力をいただき、保護者と一体ですすめているとのことでした。

壁面には、2017年に遡上してきたオスのサケ・体長77cmの剥製を、誇らしげに飾ってありました。

前日に、上州屋に行き、エアーポンプとふたつきのバケツを買いました。そのバケツに500粒のサケの受精卵を入れてもらいました。受精卵の積算温度は39.2℃とのことで、すでに発眼や孵化しているものがありました。「一粒も死なないように！」と願いながらすぐに引き返し、明日の配布に備えました。

次の日、綾瀬駅に、山口さんに迎えに来てもらいました。最初の配布先はチェリー幼稚園です。園長先生から、「ぜひお願いしたい！」と連絡があったのです。インターホンを鳴らすと、担当の先生が笑顔で迎えてくれました。「早く届けたい！」と、次を急ぎました。元宿こども園・上沼田保育園・入谷第二保育園・栗原宅・鹿浜こども園、最後に山口宅に届けることが出来ました。

どこでもしっかりと水槽を準備し、「サケがきたんだ！」「うわー、もう動いているよ！」「○○ちゃん、見て、サケの卵だよ！」と、大歓迎でした！

サケの飼い方のリーフレットとエサを渡し、積算温度が39.2℃であること・できるだけ大きい水槽に少ない数で飼育することが望ましいこと・孵化するまでは紫外線防止の黒いカバーをしておくこと、などを伝えました。

3年ぶりに、こどもたちや先生方が大喜びで迎えてくれたサケの受精卵。卵の様子をじっと見つめている子・変化に気づいて急いで先生に話そうとしている子、そんな光景を思い浮かべながら帰途につきました。

新しい生命の成長の様子は、きっと、こどもたちに「命のつながり・神秘さ」を伝えながら、仲間との共感を育てて行くことでしょう。

サケの放流は、3月5（日）午後2時から予定しています。放流河川は都市農業公園付近の新芝川です。

サケの育て方

生命の誕生を、家族そろって観察してみましょう。

- 大き目の水槽を用意します。ポンプもつけましょう。
- 水草や石を入れましょう。
- 家で一番寒い所へ置いてください。(太陽には当てません)
水温は15℃以下が最適です。孵化するまでは紫外線をさけるため、水槽の回りに黒い紙を被せましょう。
- 水温を測ります。ノートに記録しておきます。その毎日の温度を計算しておくとし積算温度となり、サケのふ化の時期や餌を食べ始める時期を推測できます。
- 水が汚れたら、半分だけ取り替えましょう。(くみ置きした水)
- 観察ノートを用意し、変化のあったときには記録し写真も撮っておきましょう。そして、家族みんなに伝えてあげるといいですね。
- 死んだ卵はすぐ取り除きます。
- ふ化して腹の赤い部分(さいのう)がなくなり、上の方に泳ぎ出したらエサを与えます。
めだか用の餌でも十分です。
- 泳ぎだしたら飛び出さないように、ふたをしておきましょう。
- 放流は、3月上旬を予定しています。都市農業公園の近くの荒川か新芝川です。4年後に、遡上してくるサケを期待したいですね。

=積算温度=

積算温度とは、毎日の水温をたしていった累計です。

水温10℃で10日間飼育した卵は、積算温度100℃となります。

積算温度	卵の様子
10℃	受精する
240℃	黒い眼が目立ち始める。
320℃	黒い眼が、キョロンと動く。体全体がわかるようになる。 この頃の受精卵を配布しています。
480℃	孵化する。卵の膜を破って、頭から飛び出してくる。
720℃	お腹の黄身がなくなり、上の方を泳ぎ出す。
900℃	黄身が完全になくなり、元気に泳ぐ。エサを食べはじめる。
1200℃	体長3~5センチ、0.8~1グラムになり、 サケらしい姿になる。
3月上旬	放流のために、荒川か新芝川へいきます。